

ひやくさい

2019年(令和元年)11月発行 No.100記念号

福岡県高齢者福祉生活協同組合

〒812-0025 福岡市博多区店屋町3-23

サカタビル2F

TEL(092)282-1431 FAX(092)282-1433

発行責任者: 代表理事 森元 茂利

編集責任者: 広報委員会

Email: ikiiki00@mba.sphere.ne.jp

ふくし生協

検索



機関紙「ひやくさい」100号達成を祝う



(松本憲一・理事長代行)

今年ふくし生協は創立20周年を迎えました。その節目の年、機関紙「ひやくさい」も百寿を迎える運びとなりました。まことに喜ばしいことと心からお祝い申し上げます。ひとえに諸先輩方ならびにとりわけ「ひやくさい」の編集、発行にご尽力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

「ひやくさい」はふくし生協内の行事やできごとを伝えるだけでなく、組合員・職員に最新の情報を提供し読者同士の相互理解と親睦を深める役割も果たしてきました。この間、何代にもわたって編集・発行にあたってこられた編集委員の皆さま、なканずく2008年1月号(第41号)から発行に携わってくださった長谷編集委員長(前副理事長)の労に負うところ大であります。こだわりは「み

んなの参加と年6回発行」。そのためにも依頼した原稿が間に合わないことを想定して「差し替え」の記事を準備しておく「用意周到」。イベントには取材と称してみずから「ハモニカおじさん」を演じながら参加して生きいきとした記事につながるなど、「業務」とはまるでちがうボランティア精神の権化ともいふべき活動ぶりでした。心からの感謝を申し上げるとともにこの100号の発刊をもって勇退されることに寂しさを禁じえません。

この2019年度、ふくし生協はまさに激動の年となりました。6月の通常総代会そして2回の臨時総代会を経て9月1日に新執行体制がスタートしました。ふくし生協の理念「私たちのめざすもの」の原点に立ち「組合員ファースト」の事業と運営を貫く、まずは「経営再建」を組合員皆の参加で成功させると宣言してとりくみを開始したところです。その「再建」の大事業が緒に就いた今、「100号」の記念発行となったことに感慨し

きりであるとともに決意を新たにするとこころです。

「ひやくさい」は来る年2020年(令和2年)1月号から101号として新たなスタートを切ることになります。「正直、公開、社会的責任そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする」(協同組合原則Ⅱ価値)ふくし生協にふさわしい機関紙として200号300号をめざしたいものです。

(副理事長・理事長代行 松本憲一)



「ひやくさい」100号記念号発刊に寄せて



私たちふくし生協の機関紙である「ひやくさい」が今号(11月)で通巻100号発刊の日を迎えました。1998年7月の創刊以来20余年、刊行を続けることができたのもひとえに、ご支援くださった組合員(読者)様のおかげと深く感謝申し上げます。また、20余年の刊行を継続するために、惜しみないパワーでお力添えくださったすべての方々に深甚の謝意を表します。

機関紙と現在のふくし生協とのかかわり(経緯)

1995年10月に「福岡県高齢者協同組合(現生協の前身)」は、全国で4番目の高齢者協同組合として設立、スタートしました。当時、県下各地で活動していた地域事業団(労働者協同組合)が中心となり、600人の組合員でスタートしたのです。

中で、高齢者協同組合は介護保険事業への参入を最優先課題として位置づけ、「消費生活協同組合法」に基づく法人組織へと移行をめざすことになりました。

1999年3月13日、これまでの高齢者協同組合の組合員を母体にして「高齢者ふくし生協」創立総会が開かれ、4月5日認可申請書提出、4月12日生協法人認可となりました。正式名称は福岡県高齢者福祉生活協同組合となり、通称は「高齢者ふくし生協」と呼ぶことになりました。

九州に初めて誕生した「高齢者福祉生協」、3年余に及ぶ準備期間中に高齢協としての実績がその後の活動のベースになりました。

1997年に「介護保険法」が成立し、介護のあり方が従来の措置方式から社会保険方式へと大きく転換することになりました。こうした

1999年6月No.6号から紙名「ひやくさい」に決定!!

これまで創刊からの2年間、無名であった機関紙でしたが、1999年6月のNo.6号からその名も「ひやくさい」と命名決定しました。以来今日まで継続しているのです。

当時の平均寿命が70歳代と言われていた時に、やがて来る「人生100年時代」の到来を予見し、時代を先取りした命名者(名前は不明)には畏敬の念を感じざるを得ません。(もし、ご存知の方はぜひ、事務局まで一報下さい。)

創刊から数えて13年後の2011年1月に50号を達成しました。それまでの発刊状況(今号の5ページを参照)は年間の発行回数がまちまちで、年2回の年もありました。

これではいけないと2010年8月の理事会で「ひやくさい編集委員会」設置を提案、全会一致で承認されました。これは理事会付託の委員会設置であり、10月号No.49から運用開始し、翌年4月No.51から読者参加型の「文芸広場」欄を設けて、裏の一面をカラー印刷にしました。次いで10月号No.53号から、表裏の二面がカラー刷りとなり、文芸広場の絵手紙がとて美しく、紙面の内容も豊かになっていきました。

これからの課題と展望・期待 (次の200号発刊を目指して!)

私たちの機関紙「高齢協ニュース」が創刊されたのは、平成10年7月のことでした。その後の平成11年6月No.6号から紙名を「ひやくさい」と正式に命名。それから12年の時が流れ平成23年1月にNo.50号に達し、紆余曲折を経て今日に至ったことは先に述べたとおりです。

その後、長年の懸案であった隔月

発刊(年6回)を厳守し、継続することを第一に掲げて、「読者参加型」の紙面づくりに心掛けてきました。

近年、読者も増え続け、ふくし生協の機関紙としての価値と評価、その重要性は増すばかりで、その責任を痛感しています。

「ひやくさい」は、単にふくし生協内の行事や出来事などを伝えるだけではなく、全組合員・全職員に最新の情報を提供し、事業所間の相互理解と職員同志の親睦を深める役目

「ひやくさい100号」達成!!

読者の皆様ありがとう、 そして、さようなら

私たちふくし生協の機関紙「ひやくさい」が今号をもって第100号を達成しました。平成10年に第1号が刊行されてから実に20年余に亘るふくし生協の記録そのものです。

私と「機関紙編集」との積極的なかわりは2008年(平成20年)の第六期役員になった時からです。理事会の席上で「ひやくさい」が年2



回しか発行されなかったことに気づき組合員さんにとつ

て欠かせない情報源としての機関紙発行回数を増やすことを提言した事に起因します。以来、11年余の時間の流れの中で、多くの読者からのご寄稿や励まし、ご支援いただいた結果、今号で100号を迎えたものです。ご存知のように、「ひやくさい」は組合員と組織を結ぶ大切なツールであり、日常的な活動に参加できない組合員の皆様方にとっては欠かせない情報源であると共にふくし生協の歴史を振り返る貴重な記録でもあるのです。

100号達成を喜び感謝しながら喜寿(77歳)となった私は今、これを機にかねてからの公言通り委員長を辞します。

読者の皆様、長い間ありがとうございました。そして、さようなら。

(編集委員長・長谷 健司)

を果し、同時に各地域にふくし生協の存在をアピールし、様々な活動を通して地域の高齢者福祉の向上に大きく寄与しているのです。従って、より多くの方々が「ひやくさい」を目にすることを意識した紙面づくりに心掛けてきたことは事実です。

編集方針とその課題

しかし、これまでの紙面づくりの中で、取扱った記事、内容に対して①ふくし生協としての独自性(主義や主張)がない、②内容が物足りない、等の意見を耳にしたり、読者の声で指摘されたりしてきました。

ふくし生協には約6千人の組合員と職員その家族がおられる訳ですから、いろんな意見や考え方があっては当然だと言えます。また、そういう状態が健全であるのです。

ふくし生協は、県内にお住まいで年令・性別を問わずに加入できる、また組合員の皆様の夢を実現していくために、常に増資を呼びかけて協力をお願いする。立場は、ふくし生協が存続する限り永続するのですから、広く呼びかけるツールとしての機関紙は常に中立性を保つべきだ。との信念で編集に関わってきました。

第100号を迎えた今、これからの「ひやくさい」の編集の仕方や方針がどうなっていくのかが今後の課題と言えるでしょう。

これからの展望と期待

私は2004年(平成16年)5月にふくし生協に加入、もう16年が経過。「ひやくさい」の読者としては31号から今日に至っています。

その中で、一人の組合員として思うことは、組織との唯一の繋がり機関紙「ひやくさい」であるという事実。隔月であっても自宅に届く機関紙に組合員であるという自覚とメリットがあるのです。ですから機関紙発刊の継続は当然であり、休刊などは許されるはずありません。

100号発刊という節目を機にさらに内容の充実に努め、的確で重要な情報をお伝えし、これからも継続すること意義があることを使命感にして欲しいと次の編集に携わる方々に期待したいと思っています。

「ニュースが活発に発信されているかどうかその組織の活性度を示すものであり、民主主義的な運営のパロメーターである」とのある編集者の名言が胸をよぎります。

私たち「ふくし生協の機関紙ひやくさい」は、高齢の利用者様やそこで働く職員・ご家族や組合員の方々に高齢者の福祉に関する知識や必要な情報をお届けし、豊かな日々に資することが一番の役割だと思っています。長年にわたり、ご愛読いただきました感謝申しあげます。

(編集委員長)

「ひやくさい」100号達成 そして更なる未来に続け!!

私たちの機関紙「ひやくさい」が
今号で100号を迎えました。

平成10年7月号の創刊号発刊から
令和元年11月号まで20年余に亘り発
刊され続けてきたのです。

「ひやくさい」はふくし生協と組
合員のみなさんをつなぐ架け橋とし
て、また社会情勢を学びながらも組
合員同士が深くつながり合う絆の役
目を果たす存在となっています。

創刊号をゼロから立ち上げて、今
日まで継続に尽力された諸先輩方や
広報委員の方々のご苦勞に心から頭

100号を節目として、益々役立つ 情報提供・紙面づくりに期待!

1998年7月の1号から今日
(2019年11月)までの大変な道
のりを制作にかかわった編集委員の
皆さま、読者・組合員の皆さまと
ともに喜びあいたいと思います。

また、41号から編集にかかわられ
た現・長谷編集委員長の努力はなみ
なみならぬものと推察いたします。

ひやくさいは年々、紙面も豊かに
なり、法人・支部・事業所の状況報
告、シリーズでの読み物、読者の声
や文芸ひろば等々、どの組合員・読
者も楽しむことができる機関紙にな

がさがる思いがいたします。

ふくし生協は、それぞれの地域の
事業所職員をはじめ、たくさんの縁
の下の力持ち的協力者に支えられて
今日があるのです。

また、原稿依頼にも心良くご寄稿
下さった方々に感謝をせねばなりま
せん。

コッコツと100号達成、そして更な
る未来の発展に続け!とエールを贈
ります。今、改めてそのことに心し
深く尊敬と感謝を伝えます。

(水巻事業所所長・藤田 真弓)

「ひやくさい」記念すべき100号達成 おめでとうございます

りました。また、定期発行も定着し
ています。さらに、組合員一人一人
にとっては多角的で多方面にわたる
記事が満載であり、紙面を通じて組
合員の絆を強め、輪をひろげること
ができる等、その役割を一層強めて
います。

ひやくさい100号を節目として、ま
すます私たちに楽しく役立つ紙面づ
くりを継続されていくことに期待い
たします。

(本部理事・林 禮子)

「ひやくさい」発刊100号 おめでとうございます

元号が「平成」から「令和」へ:
ふくし生協創立20周年:

20周年記念事業実行委員:

「ひやくさい100号」に寄稿:

「直方市学童保育支援センター」
が、直方市より学童保育の事業委託
を受けて5年目:

今年2019年は、私にとって幾
重にも節目の年となりました。

介護事業が主体のふくし生協の中

「ひやくさい」は事業所と 組合員さんとの橋渡し

ひやくさい100号の発行おめでとう
ございます。

私も毎回楽しみに読ませていただ
いております。

ひやくさいに何度か記事を書せて
いただいた以降、「ひやくさい読ん
だよ。頑張つてね。」と声をかけて
いただいたことがあります。機関紙
であるひやくさいが事業所と組合員
さんを結びつける橋渡しの役割をし

で、学童保育の運営を行うようにな
った当初は、学童の支援員や保護者
の方達に「ふくし生協」という法人
名を知っていただく事に始まり、法
人の理念や学童保育支援センターの
方針を理解していただく事からのス
タートでした。

それと同時に、ふくし生協の方達
に学童保育の存在を知っていただく
事でもありました。

今年12月、4度目の委託事業者選
定が行われます。

ふくし生協の20年の歴史からみれ
ば学童の歴史はたったの5年です
が、運営がスタートした年の小学1
年生は来春6年生になります。

引き続き受託して、6年間、学童
でがんばった子ども達を送り出すこ
とが、今の一番の願いです。

(直方市学童保育支援センター
事務局 長 藤廣麻呂)

ていることを再確認しました。

今後もふくし生協の現状を組合員
さんにお伝えする記事を掲載し続け
てください。

いつも本当にありがとうございます。

(けいちく事業所所長代行
鬼松一生)

機関紙「ひゃくさい」発行の記録

号数	発行年	発行月	ページ数	発行回数	号数	発行年	発行月	ページ数	発行回数	号数	発行年	発行月	ページ数	発行回数	
1号	1998(H.10)	7月	4P	3回	35号	2005(H.17)	7月	8P	5回	69号	2014(H.26)	9月	12P	6回	
2号	1998(H.10)	8月	4P		36号	2005(H.17)	9月	8P		70号	2014(H.26)	11月	12P		
3号	1998(H.10)	12月	4P		37号	2005(H.17)	12月	8P		71号	2015(H.27)	1月	12P	6回	
4号	1999(H.11)	1月	4P	6回	38号	2006(H.18)	7月	8P	3回	72号	2015(H.27)	3月	12P		
5号	1999(H.11)	3月	4P		39号	2007(H.19)	2月	8P		73号	2015(H.27)	5月	12P		
6号	「ひゃくさい」命名 1999(H.11)	6月	4P		40号	2007(H.19)	8月	8P		74号	2015(H.27)	7月	12P		
7号	1999(H.11)	8月	4P		41号	2008(H.20)	1月	8P	2回	75号	2015(H.27)	9月	12P		
8号	1999(H.11)	10月	4P		42号	2008(H.20)	7月	8P		76号	2015(H.27)	11月	12P		
9号	1999(H.11)	12月	4P		3回	43号	2009(H.21)	1月	12P	3回	77号	2016(H.28)	1月	12P	6回
10号	2000(H.12)	8月	4P	44号		2009(H.21)	7月	8P	78号		2016(H.28)	3月	12P		
11号	2000(H.12)	10月	8P	45号		2009(H.21)	10月	8P	79号		2016(H.28)	5月	12P		
12号	2000(H.12)	12月	8P	46号		2010(H.22)	1月	8P	80号		2016(H.28)	7月	12P		
13号	2001(H.13)	2月	8P	6回	47号	2010(H.22)	4月	8P	4回	81号	2016(H.28)	9月	12P	6回	
14号	2001(H.13)	4月	8P		48号	2010(H.22)	7月	8P		82号	2016(H.28)	11月	12P		
15号	2001(H.13)	6月	8P		49号	理事会 付託決定!!	10月	12P	83号	2017(H.29)	1月	12P	6回		
16号	2001(H.13)	8月	8P		50号	2011(H.23) (50号達成)	1月	10P	84号	2017(H.29)	3月	12P			
17号	2001(H.13)	10月	8P		51号	2011(H.23)	4月	12P	85号	2017(H.29)	5月	12P			
18号	2001(H.13)	12月	8P		52号	2011(H.23)	7月	12P	86号	2017(H.29)	7月	12P			
19号	2002(H.14)	2月	8P	5回	53号	2011(H.23)	10月	12P	87号	2017(H.29)	9月	12P		6回	
20号	2002(H.14)	4月	8P		54号	2012(H.24)	1月	12P	88号	2017(H.29)	11月	12P			
21号	2002(H.14)	7月	16P		55号	2012(H.24)	4月	12P	89号	2018(H.30)	1月	12P	6回		
22号	2002(H.14)	9月	8P		56号	2012(H.24) (隔月発行)宣言	7月	12P	90号	2018(H.30)	3月	12P			
23号	2002(H.14)	11月	8P		57号	2012(H.24)	9月	12P	91号	2018(H.30)	5月	12P			
24号	2003(H.15)	1月	8P		5回	58号	2012(H.24)	11月	12P	92号	2018(H.30)	7月			12P
25号	2003(H.15)	3月	8P	59号		2013(H.25)	1月	12P	93号	2018(H.30)	9月	12P		6回	
26号	2003(H.15)	5月	8P	60号		2013(H.25)	3月	12P	94号	2018(H.30)	11月	12P			
27号	2003(H.15)	7月	8P	61号		2013(H.25)	5月	12P	95号	2019(H.31)	1月	12P			
28号	2003(H.15)	10月	8P	62号	2013(H.25)	7月	12P	96号	2019(H.31)	3月	12P				
29号	2004(H.16)	1月	8P	4回	63号	2013(H.25)	9月	12P	97号	2019 (令和元年)	5月	12P	6回		
30号	2004(H.16)	3月	8P		64号	2013(H.25)	11月	12P	98号	2019 (令和元年)	7月	12P			
31号	2004(H.16)	6月	8P		65号	2014(H.26)	1月	12P	99号	2019 (令和元年)	9月	12P			
32号	2004(H.16)	11月	8P		66号	2014(H.26)	3月	12P	100号	(100号達成) 2019(令和元年)	11月	12P			
33号	2005(H.17)	1月	8P	5回	67号	2014(H.26)	5月	12P							
34号	2005(H.17)	5月	8P		68号	2014(H.26)	7月	12P							

〔ふくし生協・組織強化月間10月～12月〕

ふくし生協

住み慣れたまちでいきいきと暮らし

安心して老いたい

加入・増資 ご協力をお願い!

■ 組合員加入・出資金増資にご協力ください!

私たちふくし生協は、組合員一人ひとりが協力し合って、福祉事業や生きがいづくり、仕事おこし等を進めている組織です。

事業活動は組合員の皆さんからの出資金によって支えられています。

暮らしの中の「困りごと」に対応するため、支えていただける多くの仲間を探しています!!皆様のお力をお貸しください!!



あなたも ふくし生協の仲間!

- 福岡県内にお住まいの方は年齢・性別を問わず加入できます。
- 加入時に出資金として「一口＝5,000円」をお預かりします。出資金はふくし生協の活動を支える大切な運営資金となります。(脱退されるときはお返しいたします)

増資のお願い

- ふくし生協では、組合員の皆様の夢を実現していくために、常に増資を呼びかけます!お申し込み、お問い合わせは最寄りの事業所または下記本部事務局まで

※お問合せ※

福岡県高齢者福祉生活協同組合(ふくし生協) 本部事務局

〒812-0025 福岡市博多区店屋町3-23 サカタビル2F

☎: 092-282-1431 (代表)

URL: <http://www.fukushiseikyoku.jp/>E-Mail: ikiiki00@mba.sphere.ne.jp

心と心のつながりで... 高齢者ふくし生協

または、お近くの
ふくし生協各事業所へ

シリーズ 庶民の文化物語 漫画の話 No. 4

中沢啓治にノーベル文学賞を、
『はだしのゲン』は世界遺産に手塚の「新宝島」との出会いが、
漫画家に

『はだしのゲン』の作者中沢啓治は、1937年生まれで小学一年の時に広島で被爆し、戦争反対で拘束もされた日本画家の父と姉弟の焼死で亡くします。その体験を基に描いたのが『はだしのゲン』。現在、世界23カ国で翻訳され、国内では50万部が発行。ほとんどの学校図書館が保有します。中沢が漫画家となるきっかけは、やはり手塚治虫の『新宝島』でした。敗戦後二年生の時、広島では手にできなかったこの本を同級生が持っていたが、なかなか読むことができず、どうしても手に入れようと、鉄くずを集め金をため、ようやく手にしたといいます。「あれを読んでわくわくしましたね。こんな面白いマンガ見たことがない。毎日毎日明けても暮れても『新宝島』を耽読しました。1000回以上は読んだでしょう。何ページ目のどこにはどういうセリフがあつてどうい

う場面があるというのが、全部頭に入っていました」と語ります。

母の死への怒りが
原爆漫画を描くことに

漫画家になってすぐ原爆をテーマの漫画はかけません。「どこにどういう死体があつたとか全部思い出す」からです。それをなぜ、原爆漫画を描くようになったのか。被爆から21年後60歳で母親が亡くなりますが、放射能の影響で骨が残っていないかつたことへの怒りがきっかけになります。アメリカへの怒りを込めて『黒い雨に打たれて』を描きます。しかし、被爆青年の殺し屋にアメリカ人が殺される内容から、大手出版社は作品を褒めつつ、出版されないままでした。「CIAに逮捕されるかも」と覚悟して、ようやく青年漫画誌「漫画パンチ」に掲載されます。その後、原爆漫画6作や沢山の娯楽漫画を描き「とにかく手塚さんの漫画が私を育てた」と振り返り、漫画

家として力をつけていきます。

当時、週刊漫画誌「少年サンデー」「少年マガジン」と激しく競い合っていた「少年ジャンプ」編集長の要請で『はだしのゲン』の連載を1973年に始めます。自らの被爆体験とその後の人生を主人公「ゲン」に託し「原爆の実情、悲惨さ、むごさを本当に感じてくれたら、最高の作者冥利」といい、「戦争と原爆というものはどんなに恐ろしいかを描くにはアニメだ」と、自らアニメ制作に乗り出します。1976年には三国連太郎と左幸子が両親を演じた映画もつくられ、86年制作のアニメはDVD化され、いまも上映運動が展開されています。連載は「少年ジャンプ」から「市民」「文化評論」「教育評論」に引き継がれ、10年かかって完結します。単行本は10巻です。私は公民館主事をしていた青年時代に、子どもたちや青年・母親たちと読みあつたのを昨日のように思い出します。

次世代を信じ、

ヒロシマ・ナガサキにこだわり、

伝えていく漫画家として

ところが、麻生副総理の「ナチス憲法学べ」発言があつた2013年に、「はだしのゲン」への不当な攻

撃が発生します。島根県松江市教育委員会が市議会の決議を無視し独断で、学校図書館での開架禁止を学校に要請し、ほぼ全部の学校が従います。「教育的配慮」に名を借りた不当行為だと、地元はもちろん全国から批判と抗議が寄せられ、市教委は撤回します。背景に政治的圧力が見え隠れし、麻生発言とあわせてみると「戦前への回帰」が強化されたのだと感じましたが、二つの事象への国民の対応は中沢の思いがしつかり根づいたことを証明したのだと思います。中沢は「若い世代は原爆とか戦争のこととか、そういうものについて考えてないというが、知らせればしつかり受け止めてくれる」と伝えていない大人に自省を求めます。「そのために、繰り返し繰り返し返し伝えることにこだわる漫画家でありたい」と語り、2012年に生を終えます。私は、中沢に「ノーベル文学賞」を、はだしのゲンは「世界遺産」にすべきだと心の底から思います。

(つづく)
(記・日下部恭久・東区香椎在住)



A black and white satellite photograph of a large, swirling tropical cyclone, likely a hurricane or typhoon, showing a distinct eye and dense, spiraling cloud bands over a dark ocean surface.

予報円
台風19号(11日9時現在)
暴風警戒域

強風域

13日9時

12日9時

11日21時

暴風域

温暖化に伴う気候変動 (忘れぬうちにやって来るスーパー台風)

温暖化で台風の異常発生

スーパ―台風に備えよう

利根川

宮城

福島

新潟

山形

阿武隈川

夏井川

信濃川

日本海

蛇尾川

荒川

栃木

久慈川

那珂川

田川

茨城

永野川

秋山川

群馬

入間川流域

埼玉

東京

千葉

多摩川

神奈川

山梨

長野

千曲川

50km

【国土交通省による】

決壊

氾濫

最近のニュースから、一言

「敬老の日」とは…
老人(高齢者)に敬意と感謝を!

今年の9月16日は「敬老の日」。
本来は15日と決っていますが、今年
は日曜日と重複したので翌日の16日
(月)となったものです。

「敬老の日」とは読んで字の如く
ですが、大辞林によれば『国民の祝
日の一つで9月15日と定めていま
す。多年にわたり社会に尽くしてき
た老人を敬愛し、長寿を祝うこと』
とあり、1966年(昭和41年)に
制定されました。

しかし「敬老の日」の源流は、
1947年(昭和22年)兵庫県野間
谷村(現在の多可町)という小さな
村の村長が開いた「敬老会」だとさ
れています。戦後間もない荒廃した
社会状況の中で、いち早く高齢者へ
の敬愛と労り・慰めと感謝の心を表
した当時の村長は、人間愛に満ちた
立派な人だと頭の下がる思いがしま
す。

昭和22年当時の日本人の平均寿命
は50歳代前半という時代。この時、
村が長寿を祝ったのは55歳以上の老
人だったとのこと。

戦後70年余りが過ぎて、平和の時
代が続く昨年、2018年の日本人
の平均寿命は女性が87・32歳、男性が

81・25歳に伸び、ともに過去最高を更
新しました。世界でも女性は2位、
男性は3位という有数の長寿国と
なっています。昭和22年の野間谷村
敬老会の年令に比較すると、正に隔
世の感を覚えます。

65歳以上、最高28・4%!
どう生きるかが課題

9月15日、総務省が発表しました
人口推計によりますと、国内には65
歳以上の高齢者は前年より32万人多
い3588万人、総人口に占める割
合は28・4%といずれも過去最高を更
新したとのこと。これは例えば言え
ば、街中ですれ違う人々10人居れ
ば、3〜4人が65歳以上の高齢者だ
ということになります。国立社会保
障・人口問題研究所の推計によれば
この割合は今後も上昇し、2025
年(令和7年)に30%、2040年
には35・3%に達するといわれていま
す。

世界的にみまると、65歳以上の割
合は2位のイタリア(23%)、3位の
ポルトガル(22・4%)を引き離し、
突出して高齢化が進んでいることが
わかります。

「人生100年時代」といわれている
現在の日本にあつて、人生の長い秋
をどう充実させて生きていくのかが
問われる大きな課題です。

「健康寿命」を伸ばし、
得心のいく人生をめざそう!

以前読んだ新聞の投稿川柳欄に、
「ピンコロリ 願いはすれど 今日
は嫌」というのを見つけて一人苦笑
したものでした。人は可能な限り元
気に長生きしたい、逝く時は苦痛な
くコロリと最後を迎えたいとは誰も
が考える理想に違いありません。

そこで近年、平均寿命に対して
「健康寿命」なる言葉を耳にする機
会が多くなりました。人生100年の長
寿社会を迎えた今、介護を受けた
り、寝たきりになったりもせず、自
立して生活できる年齢が「健康寿
命」と呼ばれています。その「健康
寿命」は2016年の統計によりま
すと、男性が72・14歳、女性が74・79
歳となっています。平均寿命に比較
しますと男性が9歳、女性が13歳の
差があるのが現状です。九州7県を
見渡せば、女性は全国平均の水準か
それ以上ですが、男性は下回る県が
多いのが気になる傾向です。

健康寿命について、厚生労働省の
有識者研究会が今春、2040年ま
でに2016年統計比較で寿命を3
年以上延伸するという目標を打ち出
しました。健康寿命が延びれば、な
により高齢者の「生活の質」が向上
するに違いありません。

健康寿命が延びれば、医療費や介
護費の抑制効果も期待されますし、
なによりご本人やご家族の負担も軽

減されることにつながります。

では、いかに実現するのが問わ
れることとなります。健康寿命は日
頃の睡眠時間、食生活などの生活習
慣や適度な運動量、地域との関わり
や暴飲暴食の節制なども大きく影響
すると言われています。厚生省を中
心にその施策の実践に取り組んでも
らいたいものです。また、私たち国
民も当然のことですが、日頃からの
定期的な健康診断を心掛けて、楽し
みながら体力の維持・向上に努めた
いものです。自分の老後は自分で守
る気がまえが必要です。そして、得
心のいく人生をおくりたいもので
す。

先に述べた、野間谷村の敬老会を
企画・実践した当時の村長は「長い
間地元貢献してきたお年寄りを敬
い、その長年の経験や知恵を村づく
りに生かそう」と考えたそうです。
戦後の荒廃した混乱の時代にあつ
て、その崇高な志を持った先見の明
ある人がいたのです。

地域の高齢者に
労りと敬意・感謝を!

私たちは、先人が残してくれた
様々な制度やその仕組みの中で、安
定・安心・安全な生活が享受でき
ている幸せを今一度、かみしめて、尊
い先人達に深甚なる感謝の念を捧げ
ようではありませんか。

(編集委員長)

本部事務局だより

本部の人事異動

新・編集委員長に

岩本義孝氏(51歳)

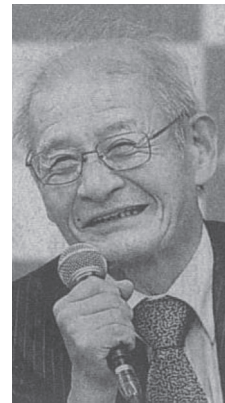
このたび、10月の理事会で新しい編集委員長に、理事の岩本義孝氏を選任し承認されました。岩本氏は51歳、「ひゃくさい」新年号から編集を担当されます。尚、これは前委員長の勇退に伴うもので、今後の活躍に大きな期待がかかります。

あなたも私たちの仲間 (組合員)になりませんか

▼私たち「ふくし生協」はみな様方の生活、福祉、老後の環境が少しでも良くなる様、全県下の仲間が出資金(一口五千元)と知恵と汗を出し合って、「自助・共助」がつながる地域づくり発展のために貢献しています。この機会にあなとも仲間に加わりませんか。

▼お問い合わせは本部又は各事業所へご連絡ください。

吉野彰さんに ノーベル賞 環境にも貢献



今年のノーベル化学賞に、スマートフォンやパソコンなどに使われている「リチウムイオン電池」を発明した旭化成名誉フェローの吉野彰さん(71)の受賞が決まりました。日本人のノーベル賞受賞は27人目。アメリカの研究

者2人との共同受賞です。
リチウムイオン電池は、小さくて軽く、長持ちする充電式の電池です。30年近く前に実用化されたころは、電話やパソコンはコンセントなどにつないで使うものでしたが、持ち歩けるモバイル機器に進化するのに役立ちました。使い道は、温室効果ガスをほとんど出さない太陽光発電や電気自動車(EV)などへと広がり、地球温暖化対策にも役立つと注目されています。
受賞について吉野さんは「非常にうれしい。環境問題の解決に貢献できる」と話しました。

ふくし生協では、 働く仲間を募集しています

「いい人がおるよ!」など地域組合員の
皆さんのご推薦もお待ちしています!

- 介護スタッフ…ヘルパー2級以上(未経験、資格のない方も応相談)
- 看護スタッフ…准看護師以上
- 訪問ヘルパー…ヘルパー2級以上

お給料や待遇など詳細は面談にて。

【お問い合わせ先】 本部事務局 〒812-0025
福岡市博多区店屋町3-23 サカタビル2F
TEL 092-282-1431

ふくし生協の「機関紙」 『ひゃくさい』の原稿募集

読者の皆様方には毎度の御愛読、誠にありがとうございます。

お蔭様で「ひゃくさい」も定期発行が守られておりまして感謝しています。そこでこの「ひゃくさい」をより充実させるために各事業所及び読者の皆様方から原稿を募集します。

下記の要領でご応募下さい。

記

1. 募集記事:

エッセー・事業所の行事報告・絵手紙・俳句・短歌・川柳・読後感想文・読者の声・クロスワードパズルの答などなど

2. 応募メ切日: 毎月15日(本部必着)

3. その他:

季節・内容によって記事掲載及び訂正、割愛の判断は編集委員会で行うことがあります。ご了承ください。

—「ひゃくさい編集委員会」—

読者の声

▼「もしも…」のために、知ってきたい介護の仕組みとサービスを读んで、ある程度は知っていましたが改めて勉強になりました。

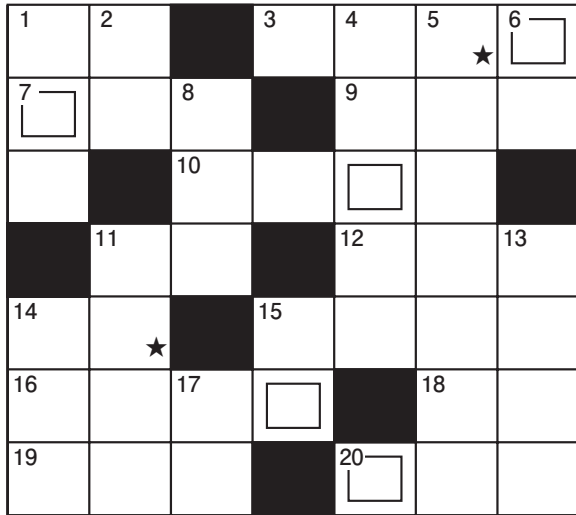
(飯塚市・波止 千春)

▼いつも「ひゃくさい」を楽しみ読ませて頂きありがとうございます。

毎回、自宅に届くことを首を長くして待つております。「ひゃくさい」は組合員と本部(組織)を結ぶ唯一のものです。長く続く事を願っています。

(南区・毛利 嘉子)

クロスワードパズル



▼タテ、ヨコの《カギ》に従ってマス目に言葉を入れてください。ただし、右下隅に☆のあるマスには漢字が入ります。タテ、ヨコで漢字の読みは違っています。すべてのマスを埋め終わったら、二重マスの中の文字を並べ替えて、《ヒント》にふさわしい言葉を作ってください。それが答えです。

50

▼いつも広報紙「ひやくさい」を楽しみに読んでいます。

(南区・小島ヨシノ)

▼「ひやくさい」No.99号を拝見しました。新役員の人数の多さにびっくりしました。理事会の目標の中に「組合員ファースト」という言葉があったので、少し安心しました。

(早良区・永島多佳子)

▼私は15年前に介護ヘルパー2級を取りました。色々な講習があり、とても勉強になりました。特に紙オムツを自分ではいて、用を足すという事とは

でも抵抗がありました。まず相手の気持ちになって行動する事はとても大切ですね。私は今も会社員のままで、もう介護される側になりつつあります。車のローンも残っているの、あと少し頑張りましょー。

(行橋市・古門文江)

【投書がありました】

投書の内容は、9月1日の臨時総代会で選出された理事の資格要件を問うもので、差出人は匿名でした。この投書以前にもいずれも同様の趣旨の匿名

の投書が2通届いていましたが、ひやくさい紙面への掲載はひかえることにいたしました。

編集委員会としては、今号の前の9月号(第99号)で「総代会Q&A」としてこの件に対する理事会の見解が示されていましたので解決済みのことと判断いたしました。

この匿名の方がそれでも納得がいかないということであれば氏名と連絡先を明らかにして理事会に申し出られたらいかかと考えます。

(ひやくさい編集委員長)

- 《タテのカギ》
- 1 ユーカリの葉を食べるオーストラリアの動物
 - 2 心根。〜が悪い
 - 4 育つて大きくなること
 - 5 学校などで病気の予防や早期発見のため二斉に行います
 - 6 自戒の言葉、座右の〜
 - 8 留守を狙って忍び込みます
 - 11 予定していた映画や演劇の上映上演が中止になる
 - 13 ちょとしたことでも機嫌が悪くなるのを虫の〜が悪い
 - 14 安打
 - 15 弓はこれを狙って矢を射ます
 - 17 生まれ順がいちばん後、〜の弟
- 《ヨコのカギ》
- 1 立身出世、何の滝登り?
 - 3 雑多なものをひと所にまとめる
 - 7 日本が属している地域
 - 9 立派なこと。〜な業績
 - 10 台所のこと
 - 11 ぶの記号で表します
 - 12 必要な数より多くある、切符が1枚〜にある
 - 14 大切にしまっておくこと。〜の品
 - 15 野球の投手の立つ所
 - 16 1960年代に世界中で流行した腰をひねるように踊るダンス
 - 18 相撲で力士が踏みます
 - 19 長所
 - 20 列車はこの上を走ります

《ヒント》 わが子の長寿を願って

■前回の答は「ケイロウノヒ」でした。正解者多数につき、抽選で次の5人の方々にQUOカードを送りました。

◆九十九号クロスワードパズル当選者

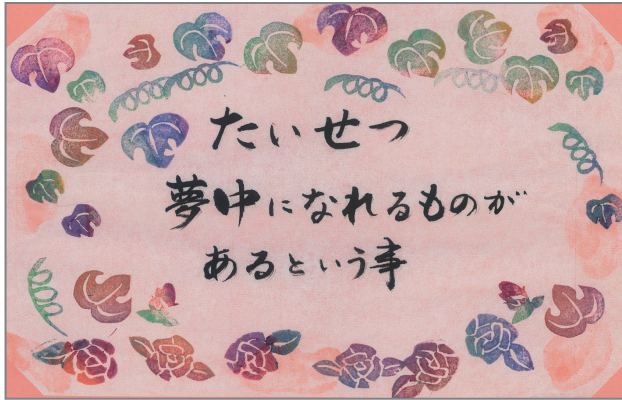
- ・小島ヨシノさん(南区)
- ・古門 文江さん(行橋市)
- ・永島多佳子さん(早良区)
- ・波止 千春さん(飯塚市)
- ・伊藤 幸雄さん(博多区)

完成した言葉と「ひやくさい」の感想などをはがきを書いて、「ふくし生協・広報委員会クロスワードパズル係」まで12月15日必着。正解者の中から抽選で5人にQUO(クオ)カードを送ります。

前回の答(No.49)

1	ネ	2	コ	3	テ	4	ツ	5	ポ	6	ウ
7	ツ	ウ	8	カ	9	イ	リ	エ			
		10	キ	ン	11	コ	12	タ	キ		
13	懸★	シ	ヨ	ウ	14	キ	ン				
15	ケ	ン		16	ジ	ユ	ク	17	語★		
	ハ		18	ヒ	ヨ	ウ					
19	シ	ノ	ビ		20	ソ	回	イ			

(敬老の日)

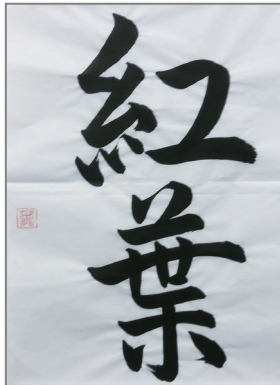


▲ほのぼの消しゴム版画作品
(版:加治美千代 字:鶴田輝子)



ミナミ・書道部

ご投稿ありがとうございます。



▲秋桜(ミナミ・デイサービスの皆さんの作品)

投稿俳句と川柳・短歌

俳句 (ミナミ・デイサービス)

丸山玉枝

コスモスや 風にユラユラ 白い雲
台風に 打ち勝つ強さ 稲光る
秋立ちぬ 風の冷たさ 足すくむ

川柳 (ミナミ事業所)

桧原 健(ペンネーム)

関電の 幹部らお主も 悪よのう
消費税 値上げの用途を 凝視する
事件事故 多発の原因 政治かも
神戸小 イジメのお手本 四教諭
奇蹟とは ワールドラグビー 起こるんだ

川柳 (博多区比恵町)

伊藤 幸雄

目立ぬが 隅へ置けぬぞ 憎い奴
飯まだか 妻の生家の 亭主面
淑女にも 無くて七癖 靴の底
女子会の 嫁に負けと 厚化粧
老春に 嬉し恥ずかし 妻にキス

短歌 (ミナミ・デイサービス)

好

コブシの実 完熟待てぬ カラス達
むらがり過ぎて 小枝折々
年重ね 忘れる事の 多き日々
我にむち打つ 出来栄え自慢
空高く 夫さがす我れ いとおしく
幾年過ぎて 愛は変わらず

編集後記

▼例年の夏の猛暑に加え、今年は台風の当たり年。8月・9月を毎月のように大雨、暴風警報が発令され、秋の到来を喜んでいたのも束の間、台風15号で千葉県が、先日19号では大水害が未経験の茨城・群馬・埼玉・千葉・栃木・岩手・宮城・福島・長野・東京・神奈川・静岡の12都県で発生。堤防の決壊、河川の氾濫や住宅の浸水水没、道路・橋の損壊等々の大被害。中でも痛ましいのが死者・行方不明者が90余名にも及ぶ犠牲者が出たこと。被災された多くの方々の深刻な状況に言葉を失う。

台風19号のむごすぎる爪痕と現状は全国民の知るところとなり、「災害は忘れて頃にやってくる」ではなく、毎年、季節を問わずやってくる現実に災害列島の宿命が悲しい。心からお見舞い申し上げます。

台風19号による被害への支援について

台風19号の被害につきまして、被災者の方々ならびに関係者の方々に、心よりお見舞いを申し上げます。さて、高齢協連合会としての支援活動は「日本労働者協同組合連合会による義捐金活動」への協力を呼びかけさせていただくこととしました。ご協力いただける際には、左記口座まで振り込みをお願いします。振り込みいただきましたら、別紙「台風19号被害への義捐金振り込み内容記載用紙」にご記入の上、労協連経理(堀本様)宛てに、FAX(03-6907-8041)をお願いいたします。

●義捐金振込口座

中央労働金庫 池袋支店(普) 3585032
一般社団法人日本社会連帯機構 義援金

代表理事 永戸祐三